

Case Study 4

● 機能訓練指導員 ●

あん摩マッサージ指圧師

お年寄りの笑顔を取り戻すのも機能訓練

中途障害者の豊富な社会経験が、
機能訓練の現場に生かされています。



■プロフィール

北岡 修一さん (55歳)
(障害等級 4級)

きたおか・しゅういち 1950年、福井県出身。1988年頃から徐々に視力が低下。1993年、視力低下を理由に家電販売業を廃業。国立身体障害者リハビリテーションセンターで

学び、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家資格を取得。1996年から現職。

障害を受け入れた上で、外部に働きかける

高い木立に囲まれ、緑あふれる中に佇んでいるのが第二南陽園です。156人の定員に対して150人の入所者、6人のショートステイを受け入れています。ここで機能訓練指導員として働く北岡修一さん(55歳)は、30代後半から徐々に視力が低下した中途障害者です。視力が低下するまでは順調に家電販売業を営んでいましたが、仕事に不可欠だった車の運転が不可能になり廃業を余儀なくされました。精神的なショックや様々な困難は想像を越えるものがありましたが、「自分の中で障害を受け入れ、引きこもらないことが大切です。障害を持っていても、自らバリアーを張らなければ、社会に出て自立し、他者と交流する機会はどんどん広がります。街中のバリアフリー化も、徐々にですが進展していますから」と冷静に話します。

人柄が可能にする心のバリアフリー

副園長の村上和夫さんは「入所者が北岡さんと接しているとき、ニコニコと嬉しそうな表情をしているのが印象的です。彼の人柄がそうさせるのでしょうか。また、入所者の要望などを介護の現場にフィードバックしてくれるので助かります。私は彼の上司ですが、北岡さんは社会経験が豊富ですので、よき相談相手にもなっています。機能訓練指導員としての技能だけでなく、その人柄を評価しています。

社会福祉法人 浴風会 特別養護老人ホーム 第二南陽園

所在地：東京都杉並区高井戸西1-12-1



指導員の仕事です



同僚からのメッセージ

副園長
村上 和夫さん

北岡さんは、にこやかに話され、同僚としても頼もしい存在です。

機能訓練とともに入居者の心のマッサージ

現在北岡さんは、希望者21名にマッサージの施術を行いながら機能訓練を施しています。「入所者の平均年齢は約84歳です。医師や看護師と連携しながら機能訓練を実施するのは当然ですが、かなりの部分が私の裁量に任されていますので、責任がある一方でやりがいを感じています」。当初は、入所者に応じての力のいれ具合がつかめずに戸惑ったともいいます。

脈や体温を計り、健康状態を把握してマッサージ、機能訓練にうつります。常に新聞、雑誌で情報を集め、入所者との話題にも事欠きません。「入所者の方に楽しんでもらうことを心掛けています。そして私自身もやりとりを楽しむようにしています」。入所者の心を和らげ、生活に張り合いをもたせるよう努めているようです。そして廊下で入所者とすれ違う時には声

をかけ、ハイタッチまで飛び出します。北岡さんが入所者と接するときの態度は、ちょうど自分の親に接するようでもあります。「気性が激しかったり、拒否されることも」ありますが、人生の荒波を乗り越えてきた世代に対する尊敬の念を忘れません。



Message



●園長

百瀬 律子(ももせりつこ)さん

高齢者にとって身体機能の維持は切実なものです。老人ホームに機能訓練指導員が存在する意義は大きく、お年寄りが機能回復する効果はめざましいものがあります。高齢者は弱っていく存在ですが、可能な限り身体機能を維持するには、一人一人の状態をつぶさに把握している北岡さんのような機能訓練指導員が欠かせません。加えて、施設内でじっくり1対1で交流できる存在は貴重で、心理的にプラスに働き、入所者の気持ちを和らげてくれています。

北岡さんの場合、もともと優しい人柄であると感じますが、ご自身の視覚障害を通しての痛みは、高齢者への優しさや思いやりにつながっているのではないのでしょうか。